

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900412		
法人名	アーケム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑かなすぎ		
所在地	千葉県船橋市金杉町882-3		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中でその人らしく生活が出来るように支援しております。
グループホームのならではの少人数での共同生活のため、ひとり1人に寄り添い安心した生活が送れるように支援に努めております。
ご家族様にも常にケアに参加して頂き情報共有に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は①「家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活をおくることができるよう援助します」との理念の基、利用者に寄り添い安心して暮らせるよう職員一丸となって支援に努めている。②利用者は職員との深い信頼関係を持ち、ゆっくりゆったりとした日常生活を楽しんでいる。③ホームでは職員のアイデアによる感染対策に取り組むなど、意見が言いやすく明るい職場環境である。④コロナ禍でもメールや動画を配信し、電話で会話を楽しみ、短時間の面会も実施するなど家族の喜びとなっている。⑤最後まで寄り添う支援に努め、看取りも行うなど、利用者・家族との信頼関係は高く、外部評価に伴い今回実施したアンケートからは感謝の言葉があふれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆう希苑の理念を申し送りや会議で提唱し職員と共有に努めております。理念の中にある家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活が送れるように支援に努めております。	「家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活・・・」等を理念に掲げている。利用者が持てる力を活かしながら安心して暮らせていけるよう全力で取り組み、終の棲家として人生の最後まで寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	直接的な交流は感染症対策のため、自粛しております。	ハロウィンに大勢の子どもたちが訪れ、利用者にお手紙を渡し、公民館でのバザーや地域祭りに参加するなどの活動をしていたが、現在は中止となっている。ホーム近辺の清掃や雪かき、自治会の回覧板などで地域とつながりを得ている。	災害等、万が一の際には地元自治会や住民の協力を得られるような関係づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接的な交流は感染症対策のため、自粛しております。 本来は地域行事に参加させて頂き、運営推進会議にご入居者様代表も参加して頂き認知症に対する理解や周知に努めておりま		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策のため議事録をFAXにて送付し、FAXや電話にて意見交換での開催に変更致しました。	運営推進会議は書面開催とし、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、在宅支援センター、家族代表等の参加を得て2カ月ごとに開催されている。利用者の生活状況や健康状態、家族面会、コロナ予防等利用者を守る支援の具体的な報告を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、在宅支援センターと情報共有し入居者様の居住方法の変更を支援して頂いたり生活支援課、指導監査課の方と常に連絡を取り合い行政、地域全体で入居者様のサポートが出来るように支援に努めております。	地域で生活に困窮された方、独居の方等の情報を地域包括支援センター、在宅支援センターと共有し、連携して支援に取り組んでいる。また、生活支援課、指導監査課とは随時相談を行うことで、連携して支援する体制を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い大通りに面しているためご入居者様、ご家族様に説明した上で玄関の施錠をしております。身体拘束11箇条を職員の目に付きやすい場所に張り出しをし、全体会議でも身体拘束について話し合いを行っております。	研修では身体拘束禁止の対象となる具体的な行為11か条のテストや「気になった事、感想」を記入式で報告するなど、全職員で実施し身体拘束をしないケアの意識づけに努めている。利用者を人生の先輩として敬い、親しい中でも言葉遣いに職員同士が注意して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の起こる原因、背景、該当する行為を職員と会議をはじめ話し合いを行い虐待防止につなげております。感染予防から外部研修は自粛し内部研修は意見書を提出し意識付けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるため制度について職員は周知、理解しております。日常生活支援事業所や市民後見センターの資料を提示し周知、理解N努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず施設内見学をして頂きグループホームの特色や役割を体感して頂いた上で契約を結び、不明点や不安も随時確認をさせて頂きご納得頂いて契約をしております。改定時にも同様の取り組みを行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様、ご家族様からのご意見、苦情について臨時会議や苦情報告書を回覧し職員と情報共有しケアに反映させております。ご家族様、ご入居者様のご意見、ご要望に出来る限り対応することを心がけております。	コロナ禍ではあるが家族面会時や電話の際に意見・要望を聞き、利用者との関わり方などの改善に努めている。今回の利用者アンケートでは「困っている事、求めている事等の話をよく聞いてくれますか？」の設問に対し、全ての方がよく聞いてくれるとの回答であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、ご入居者様の状態や皮膚状態など変化がみられるため職員と常に連携を図り、業務改善や技術向上に努めております。問題点は会議で話し合い解決、共有しております。	施設長は常に職員一人ひとりの意見・要望の把握に努めている。職員の発想によるビデオ電話やカーテン状のパーテーションなど職員意見を大切に、話しやすく意見が言いやすい職場環境である。職員同士協力して取り組む体制と働きやすい環境により、職員の定着率は高いと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、勤務態度を考慮し本社と情報共有し評価し職員のやりがいににつながる様に対応しております。また日々の職員とのコミュニケーションの中から問題点がある時は随時解決し職場環境が改善される努力に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症予防のため外部研修は自粛しております。内部研修には資料配布し研修の機会を設けました。わからない事や、不安な事には随時応えスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月施設長会議を行い、情報交換や意見交換を行っております。感染症予防のため議事録交換し意見交換を行っております。感染症対策のため相互訪問は自粛しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の背景やニーズに十分配慮し情報収集、状況把握に努め安心した生活が送れるよう支援に努めております。日頃から会話や傾聴しコミュニケーションを重視し信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に不安な事やご要望を出来るだけ多く伺い出来る限りご要望にお応え出来る努力致します。苑での生活の様子をご家族様へこまめに情報共有させて頂き信頼関係の構築が出来る様努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、ケアマネージャーとよく話し合い、「その時」に必要なサービスを見極めてサービス関係者と連携強化し最善を尽くしたサービスの提案をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の持っている力を最大限活かし役割のある生活が送れるよう支援に努めております。ご入居者様同士、作業や家事を連携して行うことで互いに必要な関係が築けるように支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護はご家族様があってこそ、ご本人様を支えることができるものだと考えております。こまめに今現状をお伝えし情報共有に努め問題点は早期に対応し信頼関係の構築に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため面会、外出を規制し対策の強化に努めております。電話やビデオ電話を利用し通話をして頂き関係の継続が出来るように支援をしております。	家族と馴染みの美容室や買い物などの外出、かかりつけ医への受診などが行われていたが、コロナ禍で厳しいのが現状である。利用者は家族とのビデオ電話や友人からの電話を楽しみ、職員の助けを得ながら手紙を出すなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染症対策のため両フロアの合同行事など自粛しており、共同リビングでも人数制限をさせて頂き密にならないよう対応しております。職員が居室にいる入居者様の居室へ訪室しコミュニケーションを図り孤立しないよう対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であってもご本人様、ご家族様との関係性を大切に相談や出来ることがあれば支援させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感染症対策のため外出、面会を規制せざるを得ない分、暮らし方にも大きく影響が出ていることを職員が理解し日々対応に努めております。本来はご本人の意向はできる限り寄り添い対応に努めております。	基本情報、暮らしの情報、心身の情報を基に利用者個人の生活リズムやかかわり方を理解し、希望・意向の把握に努めている。日々変化する一人ひとりの状況を把職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様の情報を基に今までの生活歴を把握し馴染みのある暮らし方により近づけられるように支援に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の観察、コミュニケーション、申し送りにて情報共有し、有する力を最大限活かす事、お一人おひとりに現状に合わせたケアを提供出来るよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様はじめご入居者様に関わる関係者と協議しそれぞれの視点から意見を出し現状に最適なケアを計画書を作成しております。入退院後や変化のみられた場合計画書を随時作成しております。	職員の日々の気づきを大切に、状態変化を迅速に把握、共有し毎日の介護を最適化するように努力している。全職員から意見を収集し、サービス担当者会議で情報共有し介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化、特記事項はケース記録にて記録し、申し送りで情報共有しております。計画書見直しの際、ケース記録や申し送り内容を活用し計画書を立てております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が対応出来ない時に限り入居時の引越しや通院介助の対応を致しております。ご本人様の希望や、ご家族様のご要望にて嗜好品の提供し対応することがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れは感染症対策のため自粛しております。地域行事も感染症対策のため自粛となりました。自粛が多いため人との関わりが希薄にならないように職員が常に寄り添い対応に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があります。体調変化がみられた場合、オンコール体制が整っているため随時報告し往診が受けられます。外部受診の必要がある場合、適切な医療を受けられるように支援致します。	利用者は、訪問診療医をかかりつけ医とし、月2回の定期的な診療と体調変化時の往診を受けている。緊急時は24時間連絡体制が確保されており安心につながっている。その他、眼科や泌尿器科等の専門医への受診の際も職員が同行し支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に介護者が気がついた体調変化、認知症状の報告を相談し医療の観点から介護者が出来る対応、方法など指導して頂き看護師と連携強化し日々の体調管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時に必要に応じ情報診療提供を主治医より提供し、施設から介護サマリーを提供しご家族様、病院と連携強化に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合でもご家族様、ご本人様の希望がある方は出来る限り苑での生活が継続出来るように支援しております。終末期に向けての方針をご家族様、ご本人様、主治医と随時話し合い安心して終末期を迎えられるよう医療、介護の支援に努めております。	重度化した場合や看取りに関する指針が整備され、終末期の意向確認も状態に応じて繰り返し実施されている。看取りの際は、医師に確認をしながら看取り介護計画書を作成しケアチームで取り組み、デスクカンファレンスにて全員による振り返りまで行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを提示しています。職員が対応できるよう本来はカンファレンスや勉強会を行っておりますが、感染症対策のため資料配布し不明点は個々に対応し実践力向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本来なら災害、防災訓練を行い重度者の非難誘導も訓練を重ねております。また必要に合わせ居室交換行い迅速な避難誘導が出来るよう配慮しております。運営推進会議を通じて地域の方々へ避難誘導の協力を依頼しております。	災害訓練では、火災時の消火等を含む総合訓練の他に水害時を想定して、シーツを使用した垂直避難のシミュレーションも実施している。また、一人ひとりの災害時用の名札には、氏名や既往症の他に内服薬の情報も明記され、安心への備えが行われている。	地域との信頼関係が構築されているため、災害時の協力に関しては、職員や家族との役割分担がより明確となるよう情報を共有しつつ、災害時の事業継続計画(BCP)について、準備を進めていくことに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに合わせた声掛け、対応を行い信頼関係に努めております。排泄、入浴、オムツ交換の際は特に羞恥心に配慮した対応を致しております。	職員は常に受容の姿勢を忘れず、現状を受け入れることに努め、利用者一人ひとりにあった声かけや対応ができるように努めている。このことが理念のひとつである、尊厳のある生活をおくることができるように援助します日々の実践につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や表情から本人の思いや希望を組み取り意思確認をさせて頂いております。行動は危険でない限り制止せず思いのまま行動して頂くことも自己表現、意思の自己決定の表れだと認識しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースで対応し「その日」のご本人様の行動を見守りさせて頂いております。その日の体調、気分を考慮しご本人様に寄り添い希望に添えるよう支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選ばれ季節にそぐわない恰好をしていても否定はせずタイミングを見計らい声掛けし衣類調整しております。自己決定が困難な方へは、その方が引き立つ色や形を選んでおります。ネイルや化粧する方もいるので必要なお手伝いを致します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜下ごしらえ、食事の盛り付けや食器洗い、食器拭きまで一緒に行い食事の楽しみが増すように支援しております。その時に合わせた形状もお一人お一人調整し提供しております。おやつ作りも楽しみの一つで好評頂いております。	食事の下ごしらえや盛り付け等の共同作業は、その方の生活歴の中から適したものを考え、出来る事を広げられるよう配慮されている。また、食事のリクエストメニューを聞いたり、デザート作りを楽しんだり、テイクアウトを利用する等の様々な工夫が凝らされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は提供毎に記録しております。嚥下機能、食事時の状態も日々記録し主治医や、訪問歯科と連携し提供方法、栄養状態の観察を支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔保持、肺炎予防に努めております。口腔ケアはご本人の力に応じ介入しております。必要な方は訪問歯科と連携し口腔ケアの指導をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、お一人お一人に合わせた排泄パターンの把握に努めております。声掛けにてトイレ誘導を行い失禁予防、自尿を促しております。夜間オムツ対応の方でも日中トイレ介助し排泄が出来るよう支援し機能維持、自立に向けた支援に努めております。	利用者の排泄パターンを把握するにあたっては、時間や量を排泄チェック表に記載するだけでなく、細かな言動や行動も職員全員で書き出しながら共有が行われている。トイレにはいつでも陰部洗浄ができるように準備されており、清潔への配慮も行き届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を引き起こす要因を理解し可能な限り運動、水分補給、生活習慣の改善を行っております。主治医と連携し下剤等の処方して頂き排便コントロールに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある時は無理強いせず曜日変更や声掛けする職員を変えるなど柔軟な対応に努めております。血行不良改善、清潔保持のため入浴日以外は足浴対応しての方もおります。入浴時は特に温度管理の強化に努め入浴が楽しめるよう努めております。	入浴の回数、湯の温度、洗身方法等は、利用者一人ひとりの意向を汲み取りながら支援が行われている。シャワー浴の場合でも下肢を湯船につけて保温に留意したり、浴室の泡や脱衣場の水滴にも常に配慮しながら安全な入浴支援ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や入床時間に決まりは無く、眠くなるまでリビングで過ごして頂くこともあります。ひとりで居る事が不安な時はリビングにて休まれる方もおります。時々体調や精神状態を考慮し対応致します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量、用法、注意書きを個人記録とセットにファイルし内服薬の把握に努めております。服薬時の飲み込み状態の観察も常に行い主治医に報告し服薬支援に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴、力を活かし家事や園芸などをご入居様と行っております。役割を持つことで張りのある生活が送れるように、また季節の飾りつけ作りなど気分転換や楽しみが増えるよう工夫し支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策のため外出は自粛しております。本来は職員と散歩に出掛けたり、買い物同行を致しております。季節の行事でお花見、初詣、外食会など行っております。外出支援にご家族様にもご協力頂いており支援に努めております。	ベランダでのラジオ体操や洗濯物干し、庭から駐車場までの散歩等、日常的な外気浴や日光浴が実施されている。庭には、桜やチューリップ等の季節の花が美しく咲き、裏庭ではタケノコ掘もできる環境も整っており、利用者の楽しみにつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失防止のため原則居室には置かず鍵のかかる事務所にて保管させて頂いております。管理出来る方はご家族様同意の基、最小限の金額を自己管理されている方もいます。外出時はご本人様へお渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染症対策のため面会規制中のため、電話や手紙のやり取りが出来るようお手伝いし、ご予約を頂きビデオ通話で会話ができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り作りや行事の写真を張り替えなど、ご入居者様と一緒に日時や季節の感覚を取り入れ、日中は外の明るさを感じられるようベランダにて日光浴しています。感染症対策のため共同スペースは定期的に消毒、換気を行い清潔な環境が保持し安心して過ごして頂けるよう支援しております。	温湿度管理の他に次亜塩素酸を使用した拭き掃除と定期的な換気の実施が徹底されており、安全で過ごしやすい環境となっている。また、季節の花や行事をモチーフとした壁画は職員と利用者の共同作業で作成されており、次は何を作ろうかという話題もつきない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす事を希望される時は、居室で過ごさせて頂いております。本来は共同スペースではレクリエーションや会話を楽しまれる方が多くみられております。感染症対策のため共同スペースでの人数制限をさせて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来る限り使い慣れたものをお持ち頂いております。使い慣れたものを置くことで居心地の良い空間で安心した生活が送れるように支援しています。	一人ひとりの部屋の表札周りの飾りも四季折々の変化がみられる。自分の大切な物は、どこにどの向きで配置するか等の細部までこだわり、季節によって採光状態が変化することも考慮しながら、居心地よい空間となるよう本人主体での部屋作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒、接触防止のため常にご入居者様に合わせて環境整備に努めております。トイレや居室には表札を付けて場所を分かりやすく工夫しております。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームゆう希苑かなすぎ

作成日: 令和 4 年 5 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	災害等、万が一の際に地元住民や地元自治会の協力が得られるか	災害時、万が一の際に地元住民や地元自治会に避難誘導や安全な場所での見守りの協力が得られるようにする	自治会の回覧板や掲示板を利用し誘導や見守りの協力が得られるよう施設を周知する。	6カ月
2	13	訓練を行っているがより職員や家族の役割を明確にする	明確になるような体制作りをする	事業継続計画(BCP)を作成し周知する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。